

Edulution

令和7年度千葉県教育庁教育振興部
学習指導課ICT教育推進室発行

教育 (Education) × 進化 (Evolution) の造語
「ICT」を効果的に活用することで、
教育の次なるステップを目指しましょう。



※県教育委員会ホームページのICT教育のバナーにアクセスしてください。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/giga/jouhoukeikaku.html>

教育DXロードマップはご覧になりましたか？

令和7年6月13日付けでデジタル庁より教育DXロードマップが公表されました。これは令和4年1月に公表された教育データ利活用ロードマップを改訂したものです。またデジタル庁を中心に文部科学省はもちろん、総務省や経済産業省が連携し策定したものです。

この教育DXロードマップには5つの重点施策が示されています。この重点施策を1つ1つ、次項で細かく見ていきたいと思います。

(1) デジタル化による教職員の負担軽減

教育DXロードマップの「①デジタル化による教職員の負担軽減」は、校務の効率化と働き方改革を目的とした施策です。紙や電話、手作業による業務を見直し、「12のやめることリスト」に基づいて校務をデジタル化。連絡業務や調査業務をオンライン化することで、教職員の事務負担を軽減し、教育活動に集中できる環境を整えます。これにより、教育の質の向上と持続可能な学校運営が期待されます。



(2) 多様な学びのための学習環境の整備



教育DXロードマップの「②多様な学びのための学習環境の整備」は、児童生徒一人ひとりの学びを支える環境づくりを目指す施策です。1人1台端末の活用や高速ネットワークの整備により、場所や時間にとらわれない学習が可能になります。

さらに、生成AIなどのデジタルツールを活用し、発達段階や個々のニーズに応じた学習支援を実現。音声入力や多言語対応など、多様なインターフェースの整備も進められ、誰もが自分らしく学べる環境の構築を目指しています。

（３）データによる学習者の自己理解・教師の見取りの充実

教育DXロードマップの「③データによる学習者の自己理解・教師の見取りの充実」は、教育データを活用して学びの質を高める施策です。システム・ツール間の教育データの標準化を推進することで、安全・安心なデータ利活用が可能となります。児童生徒は教育データを可視化することで、**自己理解や学習の進捗**を把握しやすくなります。教師はダッシュボードなどを通じて、**個々の学習状況を的確に見取り、指導に活かす**ことが可能になります。



（４）生涯を通じて学びのデータを活かせる環境の整備

教育DXロードマップの「④生涯を通じて学びのデータを活かせる環境の整備」は、個人の学習履歴や学修歴証明を安全かつ継続的に活用できる仕組みづくりを目指す施策です。転校や進学時に学びのデータを持ち運べるようにし、**分散管理された教育データを連携**するための認証基盤を整備します。これにより、学校教育だけでなく卒業後まで、**学びの履歴を活かした支援**が可能となり、生涯にわたる学びの質と継続性が向上します。



（５）教育政策や実践に資する教育データの研究目的の利用

教育DXロードマップの「⑤教育政策や実践に資する教育データの研究目的の利用」は、教育の質向上と政策立案の精度を高めるための施策です。児童生徒の**学習データを匿名加工し、研究者や教育関係者が安全に活用**できる環境を整備します。これにより、教育技術の開発や政策の効果検証が可能となり、**科学的根拠に基づいた教育改善**が進みます。データの利活用は、教育現場の課題解決や未来の学びの設計に貢献します。



今回公表された、教育DXロードマップではR7～R11までの取り組むべきことが明記されています。是非詳細を確認していただき、各学校の学校情報化基本計画等の見直しをお願いします。